

令和6年度 第2回生野区区政会議 くらしの安全・安心部会

1 開催日時

令和6年12月23日（月） 19時00分～

2 開催場所

生野区役所 6階 604・605会議室

3 出席者

(区政会議委員) 9名

森口委員、長谷川委員、薮本委員、井筒委員、玉井委員、田村委員、北口
(充) 委員、中村(一)委員、川中委員

(その他関係者) 1名

西村委員

(生野区役所) 13名

筋原生野区長、小原副区長、大川企画総務課長、山崎安心まちづくり担当
課長、藤原子育て・地域福祉担当課長、武田企画総務課長代理、白井地域
まちづくり課長代理、竹中地域まちづくり課地域活性化担当課長代理兼
教育委員会事務局総務部教育政策課生野区教育担当課長代理、上田保健
福祉課地域福祉推進担当課長代理、下村保健福祉課福祉企画担当課長代
理、塩澤保健福祉課健康推進担当課長代理、小笠原企画総務課担当係長

4 委員に意見を求めた事項

(1) 令和7年度生野区の取組（案）について

(2) その他

- ・会議資料 令和7年度生野区の取組（案）について
- ・会議資料 意見交換の議題テーマ
- ・参考資料1 「生野区グローバルタウン物語」プロジェクト説明資料
- ・参考資料2 事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応
- ・参考資料3 主なご意見等と区の考え方、対応

（令和6年度 第1回生野区区政会議 全体会）

- ・参考資料4 令和6年度生野区運営方針アウトカム指標改定

5 会議内容

○小笠原企画総務課担当係長

それでは、皆様、お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただ今か

ら、令和6年度第2回生野区区政会議くらしの安全・安心部会を開催させていただきます。

本日はご多用のところ、当会議にご出席いただき、ありがとうございます。私は、事務局の生野区役所企画総務課の小笠原と申します。着座にて失礼いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、本日ご出席の委員の皆様をご紹介させていただきます。委員名簿の順にお名前をお呼びいたしますので、お名前を呼ばれた際はお手数ですが、ご起立いただきますようお願いいたします。

長谷川委員でございます。

○長谷川委員

よろしくお願ひします。

○小笠原企画総務課担当係長

篠本委員でございます。

○篠本委員

篠本です。よろしくお願ひします。

○小笠原企画総務課担当係長

井筒委員でございます。

○井筒委員

よろしくお願ひします。

○小笠原企画総務課担当係長

玉井委員でございます。

○玉井委員

よろしくお願ひします。

○小笠原企画総務課担当係長

田村委員でございます。

○田村委員

よろしくお願ひします。

○小笠原企画総務課担当係長

北口委員でございます。

○北口（充）委員

北口です。よろしくお願ひします。

○小笠原企画総務課担当係長

中村委員でございます。

○中村（一）副部会長

中村です。よろしくお願ひします。

○小笠原企画総務課担当係長

川中委員でございます。

○川中委員

こんばんは、川中です。よろしくお願ひします。

○小笠原企画総務課担当係長

なお、衣川委員、西野委員につきましては、所用により本日ご欠席でございます。また、森口委員につきましては、少し遅れて到着とのご連絡をいただいております。

本日の会議は、委員定数 11 名に対し、8 名のご出席があり、定員の 2 分の 1 以上の出席にて、有効に成立していることをご報告いたします。

そして、本日の傍聴者は 1 名となっております。

また、本日は、他の部会からオブザーバーとしまして、ご出席されている委員の方がいらっしゃいますので、ご紹介させていただきます。こどもの未来部会の西村委員でございます。

○西村委員

西村です。よろしくお願ひします。

○小笠原企画総務課担当係長

オブザーバーの方につきましては、部会長から求めがあった場合に、ご発言いただけることになっておりますので、よろしくお願ひいたします。

区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容等が公開されます。事務局において会議録を作成いたしまして、後日、区のホームページ等で公開させていただくほか、会議の様子を収録いたしまして、後日、YouTubeにおいて配信し、どなたでも閲覧できるような形にしてまいりますので、録音や撮影について、ご了承のほどよろしくお願ひいたします。

さて、本日の会議の趣旨を簡単にご説明させていただきます。くらしの安全・安心部会では、主に「防災・防犯」、「地域福祉」、「人権・多文化共生等」の分野につきまして、令和 6 年度の生野区の取組を振り返り、次年度の取組につなげていくため、委員の皆様にご意見やご議論をいただきたいと考えております。

本日の会議でいただいたご意見等は、後日開催されます全体会の場でも報告いたしまして、全ての委員の皆様に共有いただきますので、よろしくお願ひいたします。

続きまして、本日の資料についてご説明いたします。「令和 6 年度第 2 回生野区区政会議くらしの安全・安心部会 次第」をご覧ください。

まず、会議資料としまして、事前に送付しております「令和 7 年度生野区の取組（案）について」という A4 縦の資料がございます。

次に、会議資料としまして、「意見交換の議題テーマ」という A4 横の資料がございます。

次に、参考資料1としまして、「『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト説明資料」というA4縦の資料がございます。

次に、参考資料2としまして、「事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応」というA4横の資料がございます。

次に、参考資料3としまして、前回7月に開催しました全体会でいただきました、「主なご意見等と区の考え方、対応」というA4横の資料がございます。

次に、参考資料4としまして、「令和6年度生野区運営方針アウトカム指標改定」というA4横の資料がございます。

また、本日ちょっと資料名は付けていないのですが、追加で「『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト概要」というA4横の資料を置かせていただいております。

資料がお揃いでない場合は、挙手いただければ事務局からお持ちいたします。

また、資料とは別に、区政会議委員の皆様につきましては、区政会議くらしの安全・安心部会運営に関するアンケートを配付させていただいております。このアンケートにつきましては、毎年行うものであり、本市の区政会議運営をよりよくしていくために、区政会議委員の皆様からご意見を頂戴するものとなっておりますので、部会終了後に、ご回答を回収させていただければと思っております。何卒ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

それでは、これから議事進行につきましては、中村副部会長にお願いしたいと思います。中村副部会長、よろしくお願ひいたします。

○中村（一）副部会長

副部会長の中村です。

ただいまから、令和6年度第2回くらしの安全・安心部会を開催します。区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、行政とともに生野区の課題解決のため、どう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となります。

よって、委員の皆様の個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言をお願いできればと思います。

それでは、開催にあたりまして、筋原区長からご挨拶をお願いします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原です。

本日は、年末の大変お忙しい中、また大変お寒い中、生野区区政会議のくらしの安全・安心部会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、来年度、令和7年度の取組（案）についてご説明をさせていただきますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

私のほうから最初に、この参考資料1と、それから、このA4横長の「『生野区

グローバルタウン物語』プロジェクト概要』という資料について、生野区グローバルタウン物語について、ご説明をさせていただきます。

生野区は、皆さんご承知のように、住民の約 22%、5 人に 1 人が外国籍住民の方で、日本で一番外国人住民比率の高いまちです。住民の国籍の数も、今もう約 80 か国になるということで、大阪コリアタウンが人気ですけれども、グローバルタウンと言えると思っております。また、そこにコロナが収束してから、お一人で暮らしておられた外国籍の方が、今どんどんご家族を呼び寄せてているようで、日本語を話せないこども、それから、ご家族の中で誰も日本語を話せないというご家庭が急増してきているという状態です。心配するのは、こどもさんが日本語を話せないとなると、やっぱり勉強についていくのが難しくなる。そうなると、進学も難しくなり、ひいては、希望する仕事に就くのも難しくなる可能性がある。お仕事がないとなると、貧困から犯罪に巻き込まれる可能性もあって、これが世界中の移民問題で治安悪化ということになりがちなわけですけれども、生野区でこのような、まちの安全・安心が阻害されるというようなことは、絶対に避けないといけないと思っています。今、小学校・中学校でも、日本語を話せない生徒というのは増えているので、大阪市教育委員会でも日本語指導や母語でのサポート、そういうシステムは持っているわけですけれども、サポートを必要とする生徒の数がどんどん増えすぎていて、追いつかない状態になっているんですね。ですので、今、生野区では、例えばいくつのパークで活動されている NPO 法人の IKUNO・多文化ふらっとさん、NHK でも最近よく取り上げていただいているんですけども、こういう支援団体が日本語の指導や、母語でのサポートであるとか、あるいは教育支援から生活相談まで、外国ルーツのこども達をきめ細かくサポートしてもらっております。やはり行政だけで対応できるという時代でもなくして、支援団体、あるいは地域の皆さん、行政とで、まちぐるみで外国ルーツのこどもたちを支えていかないといけないと思っていますし、そういう支援機関の活動をサポートをするような環境づくり、例えば、活動資金のための基金づくりとかも必要なんじゃないかなと思っているんですけども。そういう環境づくりをしないといけないというのがグローバルタウン物語プロジェクトのまず 1 つですね。

それから、一方で、学歴に関係なくどの国の人でも仕事がある、雇用があるという状態にしないといけないと思っています。生野区の場合は、お仕事、産業というと、ものづくり企業さんですね。ものづくり産業といわゆる飲食店。これで生野区の総売上げの大体 8 割ぐらい占めているんですね。ですから、やっぱりものづくり企業、飲食店が元気で儲かっていて稼いでいただいて、それでこそ、まちにちゃんと人とお金が回っているという状態になっている。こういう状態になる必要があるので、ものづくりの企業さんは、技術力が高いですけれど

も、下請け・孫請けの時代が長かったので、なかなか新製品の新しいアイデアが出にくいというようなことをよくおっしゃっておられます。一方で、デザイナーとかクリエイターの方というのは、アイデアはあるんですけど形にできないということがあるので、この2つをコラボして、新しい新製品を作るという「生野ものづくりタウン事業」というものを去年から始めております。これで、ものづくり企業さんに新しい収益の柱を立てていただくということで、もちろんその企業さんのご努力なんですけど、売上が去年と比べて倍増したというような企業さんもおられて、そういう形で新しい収益の柱を立てていただいて、それで外国人の方の雇用にもつなげていくということ。それから、外国ルーツの方というのは、飲食で身を立てられるというが多くありますので、今いくのパークのほうで万国夜市という、いろいろな国の屋台を出して楽しんでいただくというイベントを定期的にやっておりますけれども、そのいくのパークで、飲食店を始めるためのセミナーというのを、外国ルーツの方も対象にして、この9月から生野区役所と株式会社 RETOWN とで共同して始めております。実際にサウジアラビア、それからフィリピン、中国、こういう国の方がご参加をいただいて、いきなりお店を始めるっていうのはちょっとハードル高いので、まずは、万国夜市でお試し出店をして、練習していただくということで。実際にそれらのお店の方も、先般の万国夜市で出店して、結構なお金をしっかり稼いでいただけたというようなこともあります。それから、大阪コリアタウンは年間 200 万人の方が来られていますけど、あれは夕方 17 時くらいで閉まっちゃうんですね。これは大変もったいないなと思っていまして、大阪コリアタウンも定期的に今、夜市場（ヤシジャン）を万国夜市とも連携して始めておりまして、この万国夜市と大阪コリアタウンの夜市場（ヤシジャン）を、来年度からは定期開催ができるようにしたいなと思っています。定期開催ができるようになると、今大阪コリアタウンってあれだけ人が来てますけど、外国人観光客のインバウンドはほとんど来ておられないんですね。やっぱりコロナ以降、日本人はあんまり外食しなくなって、だいたい飲食店2割ぐらいお客様落ちているらしいんです。だから、これをやっぱり埋めるためにはインバウンドの方に来ていただく必要があるということで、こういう万国夜市、それから大阪コリアタウンの夜市場（ヤシジャン）を定期開催できたら、旅行代理店とも連携して、観光バスでインバウンドの方に来ていただくというようなことも可能になってきますので、そういうような形で、飲食の収益の柱も立てていくと。それで、ゆくゆくはこの夜市が常設ができる場所ができたらいいと思っていまして、生野区は鶴橋の国際マーケットを見ても、夜市というか、外国の台湾の夜市とか、韓国の夜市とか有名なんんですけど、ちょっと似た雰囲気を持っているんですよね。これは、ほかのまちにはない独特な風情だと思っていて、私はこれが非常に生野区の魅力であると思いますので、常設で

夜市ができるにぎわい拠点も、これから作っていきたいと思っております。

ただ、一方でまちの安全・安心をしっかりと確保していくということでは、先般もまちの未来部会の中でちょっとお話があったんですけど、日本語学校の寮が、ある地域にできまして、できたのはいいんですけど、それがどうも建築確認申請、建築基準法とか消防法の必要な手続きを取らずにやっているんじゃないかということで相談をいただきて、実際に行政側でチェックしましたら、やっぱり必要な手続きが取られてなかつたので、行政側で今指導に入って、きちんと手続きを取ってもらうということをやつたりもしています。不法な入国や滞在というの生野ではできないですよということも、きっちりと発信しないといけないと思っていますので、これについては、生野警察署、生野消防署、区役所、それから、大阪出入国在留管理局ともしっかりと連携をして、そういうまちの安全・安心というのは、しっかりと確保するということも一方でやっていきたいと思っております。

これらの一連の取組を、「『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト」ということでやっておりまして、これに YouTuber、フォロワー数 242 万人という日本を代表する YouTuber の一人である、ジョーブログのジョーくんという方が、生野区出身なんですね。彼が非常に賛同してくれて、このプロジェクトのための財源といって、先般 1,000 万円寄付いただきまして、このプロジェクトをこれから進めていきたいと思っております。

長い説明になり恐縮でございます。それでは、本日どうぞよろしくお願ひいたします。

○中村（一）副部会長

ありがとうございました。

それでは、早速議事に入りたいと思いますが、限られた時間で円滑に意見交換を進めていただけるよう、ここからは学識委員の川中委員に会議の進行をお願いしたいと思います。

それでは、川中委員、よろしくお願ひいたします。

○川中委員

副部会長からご指名いただきました、川中でございます。

今回も、皆さんのお意見交換のお手伝いをさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、会議の次第に沿いまして、「議事 1 令和 7 年度生野区の取組（案）について」区役所からの説明をお願いいたします。

○武田企画総務課長代理

企画総務課の武田と申します。

令和 7 年度生野区の取組（案）について、ご説明させていただきます。着座に

て説明させていただきます。事前に配付しています、「令和7年度生野区の取組（案）について」をご覧ください。

令和7年度生野区の取組（案）ですが、令和6年度までの運営方針の様式をより見やすくなるよう、令和7年度より様式を変更させていただいています。ページをめくっていただきますと、めざす状態、課題認識、主な戦略、アウトカム指標、令和6年度の取組実績、令和7年度の主な取組・予算（案）について、それぞれの戦略ごとに、見開き2ページにまとめさせていただいています。基本的には令和6年度に引き続き、各種取組を行っていきますが、令和7年度に強化を図る分野や、新規事業などを盛り込んだ内容になっています。

本日のくらしの安全・安心部会ですが、区政会議委員の皆様の意見交換の時間を十分に確保させていただきたいので、新規事業や拡充した事業を中心に説明させていただきます。

それでは、くらしの安全・安心部会の取組についてご説明いたします。

資料の1ページをご覧ください。経営課題1「安全・安心を身近に感じて暮らせるまち」戦略1－1「災害に備えて」について説明させていただきます。2の課題認識ですが、生野区は老朽危険家屋や空き家が多く、住民の高齢化も進んでいるため、災害対策、要支援者の避難支援対策が急務であることや、危機事態に対応できる体制・人材が不足しているといった課題があります。4のアウトカム指標です。令和6年度、運営方針のアウトカム指標を見直していますが、こちらは、最後にまとめて説明させていただきます。

2ページをご覧ください。令和6年度8月末時点での取組実績です。【地域自主防災組織の強化】です。こちらの下から2つ目の防災テラスの実施ですが、いつ起こるか分からない災害への備えや、いざというときの避難等について、毎月テーマを変えて区役所の職員が分かりやすく説明しています。令和6年4月から毎月第4水曜日に区役所1階検診スペースにて開催しています。その下のジュニア災害リーダーですが、生野区の中学生などを対象に、災害時における知識や必要な情報を伝えています。必要な技術を身につけてもらい、防災力向上につながるよう、区の防災事業としてスタートしていますが、ジュニア災害リーダー育成研修会を今後実施予定としています。6の令和7年度の主な取組・予算（案）です。予算案の一番下の空き家等や老朽住宅への対策についてですが、空き家の利活用についての予算を減額しています。空き家の利活用については、委託事業として、令和5年度に空き家の調査を実施し、令和6年度は空き家を活用したイベントを開催し、令和7年度は、令和5年度と令和6年度の取組を踏まえた検証を行うこととしていますので、予算について減額しています。

3ページをご覧ください。戦略1－2「犯罪・事故の防止に向けて」について説明させていただきます。2の課題認識ですが、依然として街頭犯罪が発生して

いること、高齢者を狙った特殊詐欺が発生しやすい状況にあること、自転車事故が多発しており、依然大阪市平均を上回っていることなどが挙げられます。4のアウトカム指標です。こちらの指標も見直していますが、最後に説明させていただきます。

4ページをご覧ください。令和6年度8月末時点での取組実績です。【犯罪の防止】、【事故の防止】ですが、公民連携を活用し、レッドハリケーンズ大阪さんや大阪プロレスさんに、特殊詐欺・交通ルールなどの啓発動画にご出演いただいており、区役所1階のモニター、広報いくの、SNS等により情報を発信しています。令和7年度の主な取組・予算（案）です。予算案の表の犯罪の防止ですが、防犯カメラの新設費用が予算の増額要素となっています。

5ページをご覧ください。戦略1－3「ずっと安心して暮らせる環境づくり」について説明させていただきます。2の課題認識ですが、特定健診やがん検診の受診率が低く、健康づくりへの関心を高める必要があること、3歳児歯科健診において、う蝕の罹患者率、いわゆる虫歯ですが、大阪市平均を上回っているため、予防歯科の意識の醸成等を行う必要があること、行政だけで多様な福祉課題への対応が難しくなっており、公的支援と連動した地域を支える包括的な支援体制の構築が必要であることなどが挙げられます。4のアウトカム指標です。こちらの指標も見直していますが、最後に説明させていただきます。

6ページをご覧ください。令和6年度8月末時点での取組実績です。【すべての世代の健康づくり】、【身近な見守り・支えあい】の取組については、これまでの各種取組を引き続き行っています。令和7年度の主な取組・予算（案）です。特定健診、がん検診、総合がん検診の実施回数を拡充し、受診する機会を増やしていきます。虫歯になるお子さんが多いので、3か月児健診での歯科衛生士によるはみがき指導等を新たに行います。

7ページをご覧ください。戦略1－4「ひとりも取りこぼさない支援を」について説明させていただきます。2の課題認識ですが、児童虐待につながる不安な兆候や課題を早期に発見し、発生を未然に防止すること、小中学校や保育園、医療機関、地域の民間事業者等と連携協力し、子育て支援の情報共有を図る必要があることが挙げられます。

8ページをご覧ください。令和6年度8月末時点での取組実績です。大きく括弧で囲まれた、上から2つ目の、【貧困の連鎖を断ち切るための支援】です。①民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」ですが、令和5年度までは、中学生・義務教育学校の7年生から9年生を対象としていましたが、令和6年度からは、小学校及び義務教育学校の5・6年生まで対象を広げています。5月から3教室で実施しています、37名の方が受講しています。令和7年度の主な取組・予算（案）です。令和7年度の取組・予算（案）ですが、令和6年度の取組を引

き続き取り組んでいきます。

9 ページをご覧ください。戦略 1 – 5 「すべての人々の人権を互いに尊重し認めあえる環境づくり」について説明させていただきます。2 の課題認識ですが、従来の人権に関する課題に加え、LGBTQ やヘイトスピーチなど、多様な人権課題に取り組む必要があること、近年増加するニューカマーを含めたすべての外国人住民を含めた人権、多文化への理解、啓発推進に取り組む必要があること、区内の外国につながる住民属性や居住エリア、コミュニティの形成状況など、生活実態の把握に努めることが重要であること、外国人住民だけでなくすべての住民が多様な言語や文化などを相互理解し、外国につながる住民が地域コミュニティに参加しやすく安心して暮らせる環境づくりが必要であることなどが挙げられます。4 のアウトカム指標です。こちらの指標も見直していますが、最後に説明させていただきます。

10 ページをご覧ください。令和 6 年度 8 月末時点の取組実績です。大きい括弧で囲まれた、上から 2 つ目の、【外国につながる住民が安心して暮らせる環境づくり】の、下から 2 つ目の、「食を通じた国際文化交流事業『EXPO いくの万博夜市～韓国フェア～』」を 7 月 27 日から 28 日にいくのパークで開催していますが、今年度は食を通じた国際文化交流事業を韓国・ベトナムそれぞれ 2 回ずつ開催する予定です。「外国につながる住民の意識等調査・施策検討事業」ですが、区内の外国人住民の実態や抱える問題を把握するためのアンケート調査を実施し、課題や具体的な支援策（案）を取りまとめることとしています。令和 7 年度の主な取組・予算（案）です。下から 2 つ目の「外国人住民との共生社会実現に向けた支援事業【新規】」と、「AI 音声認識ツールを活用した区役所窓口サービス向上事業【新規・モデル事業】」ですが、こちらが予算の増額となっていますが、こちらの事業の説明については、事前質問を受けていますので、そちらのほうで後ほど説明をさせていただきます。

配付資料の参考資料 4 「令和 6 年度生野区運営方針アウトカム指標改定」をご覧ください。令和 6 年度の生野区運営方針のアウトカム指標を改定した一覧となっています。1 ページ目の「安全・安心を身近に感じて暮らせるまち」です。先ほど見ていただいたいました、令和 7 年度生野区の取組（案）の 1 ページの左下の 4 のアウトカム指標も合わせてご覧ください。アウトカム指標の改定のほうの「災害に備えて」の上の 2 つです。まず、変更前は区民へのアンケートにより指標の達成状況を測定することとしていましたが、防災力を高めるためには、防災意識を持った地域住民や区職員を増やすことが重要であるため、地域住民については防災訓練や研修会等への地域の参加者数、毎年 1,000 人以上に改定しています。区職員については、生野区災害想定訓練の実施により、地域の防災力が向上したと回答した区職員の割合を毎年 80% 以上に改定しています。次に、

下の項目の特定空き家等の通報件数です。特定空き家等の発生は、台風等自然災害に大きく左右されるものであり、通報件数をコントロールできるものではないため、令和5年度に発足したジュニア災害リーダーを令和8年度までに各地域に配置することに改定しています。

次に、アウトカム指標改定の2ページをご覧ください。犯罪・事故の防止に向けてです。また生野区の取組（案）のほうの3ページの4のアウトカム指標も併せてご覧ください。変更前は、地域住民の防犯への取組が地域の安全につながっていると感じると回答した割合、その下の区民の自転車交通マナー向上に向けた取組のほうが効果があると回答した割合について、区民へのアンケートに効果を図ることとしていましたが、犯罪防止及び事故防止の取組に関する指標は5つと多く設定されているため、内容を再度精査し、取組効果については発生件数の減少から読み取ることができるため、区民への意識調査を対象とした2指標については削除させていただいています。

アウトカム指標改定の3ページをご覧ください。「ずっと安心して暮らせる環境づくり」と「ひとりも取りこぼさない支援を」です。令和7年度生野区の取組（案）の5ページのアウトカム指標も併せてご覧ください。変更前は区民へのアンケートにより指標の達成状況を測定することとしていましたが、福祉課題への解決及び支援を必要とする人の見守り等において、専門家かつ中心的役割を担う福祉コーディネーターへつなぐことが取組推進の一助となることから、福祉コーディネーターへの当年度相談件数、前年度以上に改定させていただいています。

アウトカム指標改定の4ページです。すべての人権を互いに尊重し認め合える環境づくりです。こちらも生野区の取組（案）の9ページの4のアウトカム指標も併せてご覧ください。変更前は区民へのアンケートにより指標の達成状況を測定することとしていましたが、人権・多文化共生に関しては当区で実施する講座事業などへの参加を促し、参加者に向けてアンケートを行い、取組の効果を図ることとするため、人権については地域人権講座や人権週間啓発事業等の参加者アンケートで、多文化共生については、やさしい日本語講座や多文化共生関係事業の参加者アンケートにより、取組の効果を図るよう指標を改定しています。

令和7年度生野区の取組（案）の説明は以上となります。

次に、参考資料2「事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応について」をご覧ください。

長谷川委員から防犯カメラの維持管理、ヘルスリテラシーの向上に関するご質問をいただいている。

1つ目の防犯カメラの維持管理についてです。平成29年4月に設置された防

犯カメラですが、防犯カメラの耐用年数など規定はどうなっているのか、また、メンテナンス費用の助成金はないのかとのご質問をいただいております。それに対する区の考え方、対応ですが、長谷川委員のご指摘の防犯カメラについては、市の地域安全防犯カメラ設置補助金の交付を受けて地域で設置いただいているが、6年以上設置する防犯カメラを補助対象としています。大変申し訳ございませんが、維持管理経費に対する助成制度はございません。

2つ目のヘルスリテラシーの向上についてですが、従来は肝臓 ALT の基準値が 30 を超えたら要注意、50 を超えたら医者に受診するようのことでしたが、先日基準値が 30 を超えたたら医者に受診するようテレビで言っていたが、基準値が改定されたのであれば啓蒙してほしいとのご意見をいただいています。それに対する区の考え方、対応ですが、日本肝臓学会の「奈良宣言」では、ALT の基準値が 30 を超えた場合、まづかかりつけ医を受診するよう勧めていますが、それを超えたからすぐに治療が必要ということではなく、問題になる前に生活習慣があれば見直すきっかけにし、経過を見てもらいたいとしています。厚生労働省の令和 6 年度の標準的な健診・保健指導プログラムにおいても ALT31 以上が保健指導判定値を超えるレベルとしており、本市特定健診において基準値を示すとともに数値が高い場合は肝臓の病気が疑われる旨注意喚起しています。引き続き、特定健診の受診勧奨を行うとともに、異常や不安を感じた場合は受診するよう健康教育等の機会を捉えて啓発に努めてまいります。

次に、こどもの未来部会の安委員から、「外国人住民との共生社会実現に向けた支援事業（新規）」について、2つのご質問をいただいています。

まず1つ目の質問ですが、新規事業の内容と外国人住民への調査事業との関連性を知りたい。また、生野区はかつて4人に1人が在日だと言われていて、昨年10月に小学校で在日生徒への差別的発言があるなど、国有の歴史的、社会的課題であるので新しく来た外国人とは同一の支援事業ではあってはならないとのご意見・ご質問をいただいています。区の考え方・対応ですが、現在、外国人住民との共生社会実現に向けた調査・施策検討を実施していますが、調査結果の報告とあわせ、異和共生の実現に向けた施策案の提案を受けることとしています。施策案については、①長く生野区に居住している外国人ルーツを持つ住民の高齢化による課題、②国籍が多様化している新たな外国人住民の課題、を含めて提案を受けますが、そのあとは同一の支援事業ではなく、ニーズを踏まえた適切な事業検討を進めることとしています。2つ目のご質問ですが、外国人住民との共生社会の実現を区政の大きな柱にするのであれば、東京都大田区のように多文化共生推進課などを作ってはどうか、東京都大田区には多言語相談窓口があり、英語・中国語などに対応し、ことば、子育て、仕事のことなど気軽に相談できると聞いている。NPO 法人に任せるとではなく、行政側にも積極的に連携する

受け皿が必要ではとのご意見をいただいている。区の考え方、対応ですが、区役所としても支援団体や地域と積極的に連携していく体制づくりは重要と考えており、調査により明らかになった課題等に対して令和7年以降の施策を検討していくことになりますが、既存事業の拡充や新規事業の実施など、具体的な取組内容により区役所内の組織の在り方についても検討していきます。また、これまでから区役所窓口では様々な言語の方と会話ができるよう、タブレットなどを活用してきましたが、来年度からは新たに大阪市24区のモデル区として最新のAI音声認識ツールを活用した取組を始めることとしており、これまで以上に窓口や各種相談に気軽に来ていただけるよう取り組んでいきます。

事前にいただいた質問に対する回答は以上となります。

最後に、本日は、資料を配付していますが、今回も意見交換の主なテーマを設定させていただきます。特にご意見やアイデアをいただきたいことですが、令和7年度生野区の取組(案)について、区長挨拶でも説明させていただきましたが、「『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト」についてです。

事務局からの説明は以上となります。よろしくお願いします。

○川中委員

ありがとうございました。

ただいま、区役所からご説明がございましたけれども、何かご質問等はございませんでしょうか。なお、ご発言いただく際には挙手の上、お名前を述べていただきますようにお願いいたします。

では、長谷川委員、よろしくお願ひいたします。

○長谷川委員

防犯カメラの件ですけれども、平成29年に設置してもらったので、一応6年は経過しているんですが、先日、警察から見せてくれと言われて防犯カメラを見てもらったんですけど、全然映っていないわと警察から言われて、業者に修理をお願いしたんです。そしたら、もうこれは耐用年数が過ぎていて、取り替えないとあかんとと言われたんですけども、その当時設置してもらった防犯カメラは21万円で、ネットで調べたら、もう5万円前後であるみたいです。だから、もっと防犯カメラをつけてほしいですわ。警察に盛んに活用してもらっていますのでね。場所にもよると思うんですけども、設置してもらった場所は、小学校の通学路で、大阪コリアタウンの入り口ですわ。だから、最近は非常に通行量が増えていますし、交通制限もあるんですけども、車も全然無視されています。先日、お巡りさんも来て、見てくれたんですけどね。防犯カメラが安くなっているわけですから、もっと予算を増やしてもらって、どんどんつけていただきたいと希望します。以上です。

○川中委員

質問としては、耐用年数経過後の対応や、設置基準にかかる問い合わせも含む内容であったかと思います。行政側からの回答・応答はございますか。

○山崎安心まちづくり担当課長

ありがとうございます。担当しております、安心まちづくり担当課長の山崎と申します。

今、長谷川委員からお話をございましたように、生野区におきましても、行政のほうで設置させていただいているのが百数十台、それから、地域のほうの皆さんで設置いただいているのがもう 300、400 台というふうに把握しております。長谷川委員からご指摘いただいたように、古い時代、平成 20 年代に各地域のほうで大阪市役所の市民局というところですけれども、そちらのほうで補助金を用意させていただいて、それでつけていただくというような形で、かなりやっていただいたところでございます。各地域で当時つけた分についても大分古くなつて、故障なんかも多く発生しているということで、何とかならないのかというお話を大変いただいているところです。生野区役所としまして、防犯カメラというのが犯罪の抑止効果にもつながるところでして、この間、新規の設置というのは数年やっていなかつたんですけれども、今年度から警察さんと連携して、警察さんのほうで、やっぱりここはあつたほうがいいよというところをいろいろお聞かせいただいて、設置をしていくこうという流れをさせていただいております。本日の資料にもありますように、令和 7 年度の取組のところなんですけれども、4 ページで犯罪の防止ということで、予算額 160 万ほど増えるというような形になっております。この増えている部分がほぼ防犯カメラを設置する金額のために増やすというような形の状況になっております。長谷川委員におっしゃつていただいたように、昔に比べて金額かなり安くできる部分もあるんですけれども、一定のしっかりしたものも付けたいなということもございまして、金額的にはもう少し高めの予算で今取っているところなんですけれども、また警察とも連携しながら必要なところに設置してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○長谷川委員

先日、業者に修理してもらって、業者から言われたんですけども、防犯カメラは毎年メンテナンスせなあかんということですね、いくらやねんって聞いたら、年 1 回 5,000 円、年 2 回で 10,000 円と言われたんです。これやつたほうがよろしいでと。一応、それはうちの町会のほうで維持することで、年 1 回 5,000 円のほうでやってもらうことにしたんですけども、カメラの位置とか方向とか、やっぱり確認しとかないとあかんのですね。警察にもよく利用してもらっていますんでね。だから、メンテナンスの面ももうちょっと補助をお願いしたいなと思うんですけどね。

○山崎安心まちづくり担当課長

なかなかすぐにお約束はできないんですけど、今日いただいたご意見も踏まえて、ちょっとまた考えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○川中委員

既に意見交換に移っていっているようなところもございますね。また、最後に追加で質問があればお伺いいたしますけれども、今日の意見交換に進みます。テーマは2つ出ておりますので、これらについて、各委員の方々から必ず一言はござ意見いただきたいなと思っております。井筒委員から順々にマイクを回していくって、お伺いしようかなと思っております。では、よろしいでしょうか。角に座ったから一人目というのは恐縮ですけども、よろしくお願ひいたします。

○井筒委員

井筒です。よろしくお願ひします。

防犯カメラもそうなんんですけど、グローバルタウンのところで、御幸森の跡地でされているのは私も何回か行ったんですけど、東のほう、うちの地域でいうと一番端っこなので、大概の方は遠すぎて来れないんです。なので、もうちょっとと東よりでそういうものをしていただけたら、もちろんベトナムの方とかもすごく増えているので、困っている方もいらっしゃらないこともないんです。中国人の方が学校の前で民宿を始められたりとか、そういうこともあったりとかで心配される方も多いので、意見になるかどうかわかりませんが、生野区全体と考えて広い範囲でもうちょっと私たちが知識を得られるような場所を作っていただけたらありがたいなと思っております。

○川中委員

ありがとうございます。

そうですね。区全域でカバーしていくにはというところでした。

では、続けて、玉井委員にもお願ひいたします。

○玉井委員

くらしの安全・安心の部会なんですけれども、私、意見というよりちょっとした提案なんですけれども、今年の1月1日に能登地震がありましたね。そのときに思ったんですけども、今日のこの資料を読みますと、生野区は5人に1人が外国人だというのが、きっちり出されております。これを見たときに思ったのは、当然地震が起きると家が倒壊したりして避難するんですね。学校に避難することになるわけなんですが、当然外国人が特に多い地区になりますと、ほとんどこれ見るとネパールとかベトナム、フィリピンですか、そういうところが多くなっていますけれども、ここで例えば一つの体育館に収容して指導していくという段階が必ず現れてくると思います。そうしますと、当然言語の難しさ、いわゆる言葉が通じないというのが大きく出てくると感じております。そのときに、そ

この連合会長が特に一番責任があるんですけれども、その人らが災害に遭った人に、いわゆるその規律を守ってもらうような説明をすることが非常に難しいと考えております。そのときに、言葉の弊害をなくしていくには、この間思つたのは、各連合に今、翻訳付きの拡声器・スピーカーが出てきておりますので、それを購入して各連合の方に2つ、3つお渡しして、避難はこうしてくださいよというのも、他言語で呼びかけるというができると考えているんですね。皆さんが規律よく行動して、しかもその収容したところで、きちんと規律を守っていただくためには、言葉が通じない限りは恐らくなかなか難しいと思います。そこで、細かいことですけれども、翻訳付きスピーカーが今売り出されておりますので、特に生野区ですと、韓国、朝鮮語、フィリピン、ベトナム、ネパール、そういう翻訳のソフトを入れていただいて、各連合に配布したらどうかなと。今日ちょっとこれを見て思いました。

○川中委員

ありがとうございました。

多言語・多文化での減災の推進というところだったと思います。

こうしてマイクを一順で回していきますけれども、ほかの委員の方の意見を聞いて、「それやったらこれも」というのが、あとで出るかもしれませんね。一巡終わりましたら、「まだありますか」とお伺いしますので、一巡目の発言機会が終わったからといって、「もう終わってしまった」と思われないでください。

では、田村委員、お願ひいたします。

○田村委員

田村です。

まず、グローバルタウン物語の中で、インバウンドを誘致するということで、旅行代理店と提携して観光バスを誘致するというふうに書かれているんですけども、多分私の知っている範囲で、大阪コリアタウンの入り口周りに大型観光バスを駐車するスペースがあるのか、それを誘導するようなところがまずあるのかどうか、それによってあの辺の道路が渋滞するということであっては、ちょっとまた新しい問題が起こると思いますので、まずは、大型バスを止められる駐車場をまず作る、東のほうであれば、今里のところに、近いところに、またそういうようなものを作って、それに以前にもお話が出ていましたけれども、公衆トイレ、そういうふうな社会資源をまず整備してから、それから初めてインバウンドを誘致できるのではないかなど私はちょっと思いました。以上です。

○川中委員

ありがとうございました。

観光客が増えていく、観光が活性化していく、そのことに耐えられる地域をどう作っていくのかという観点でございました。

では、北口委員、よろしくお願ひいたします。

○北口（充）委員

巽東の北口です。

前回も申し上げましたが、ジュニア災害リーダーの18名から38名に増えて、中学8校全校からなっているとおっしゃいましたが、また、その人数の増員ですね。そうしましたら学校内で生徒さん同士の横のつながりでそのような意識も芽生えてくるかなと思います。それに関連しまして、生野区災害時協力事業所登録団体をまた増やしていただいて、地域の関わりの人たちと関わって、災害時の対策などを検討できればいいかなと思います。それと、もう一点、次は、犯罪・事故の防止なんですが、ペダル付き原付バイク、いわゆるモペットの取り締まりの強化ですね。警察と連携していただいて、自転車マナーの啓発運動を大いにしていただけたらと思います。電動アシスト自転車も、スピードも出ますし大変重量がありますから、衝突すると死に至るような事件も出ていますから、より一層の啓発活動をお願いしたいと思います。それと、安心して暮らせる環境づくりですが、3か月児健診での歯科衛生士による歯磨き指導とありますが、3か月のお子さんは分かりませんから、そのいわゆるお父さん、お母さんへの指導ですね。それも併せてされたら効果が出るのではないかなと思います。

以上です。

○川中委員

3つの点での具体的なご提案でした。

では、中村委員、お願ひいたします。

○中村（一）副部会長

中村です。

2点あります。1つは、取組（案）絡みなんですけど、商店街とかシティバス車内の放送で、自転車のマナー等について啓発されているということなんですけど、実際、商店街の中の話を聞いたりしますと、乗っておられるのも危険なんですけど、駐輪に困っている店舗の方が多いんですけども、現実的にこうしたらダメですとかというマナー啓発は、とても大事だと思うんですけど、もっと実効性のある何か良い施策というのはないのかというのを、教えていただきたいなというのが1つ目です。2つ目は、「『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト」、とても面白いなと思って、3つ並んでいるのがワクワクするなと思ったんですけど、教育、産業振興、観光って3つ並んでまして、課題が、なるほどというようなのが挙げてあるんですけども、この課題の上位にくる問題というのが何なのかというのを教えていただきたいなというのと、その問題が何なのかというのを分かれば、取組 자체がもう少しバラエティに富むようなものになるかなと思います。その問題について、ちょっと教えていただきたいなと思いま

した。

○川中委員

自転車に関するところ、グローバルタウン物語に関するところですが、行政側から回答いただけますでしょうか。

○山崎安心まちづくり担当課長

安心まちづくり担当課長の山崎です。

私のほうから、放置自転車の関係をお話しさせていただきます。特に桃谷駅のところの商店街のお話なのかなというふうに思いますけれども、今現在、区役所におきまして、業務委託という形で桃谷駅の駅前に、朝と夕方の数時間でしかないんですけども、人に立っていただいて、「ここに停めたらあかんので、駐輪場があっちにあるからそっちに行ってね」という話の指導という形でやっていただいている。本当に実効性ある施策という話になってまいりますと、一番いいのは、置かれたら撤去するというのが一番いいのかなと思いつつも、なかなか大阪市のほうでいろんな駅がございまして、毎日そこばかりに行ってられないというような状況もあって、今、桃谷駅だったら月3、4回ぐらいは撤去しているのではないかと。月によっても変わるかと思いますけど、そのような状況にあるかなと思います。ただ、桃谷駅は商店街であるがゆえに、なかなか奥のほうまで撤去というができるケースって、毎回奥のほうまでやっているのかといいますと、そうでもないというのも実態としてあります。そこら辺あたりは道路管理者であります建設局のほうともいろいろ相談しながらどういうふうにしていくのが一番効果あるのかということで、相談しながらやっていきたいなと思います。また、お知恵もあったらいろいろご指導ください。よろしくお願いします。

○川中委員

「グローバルタウン物語」プロジェクトの課題の原因みたいな感じですかね。

○中村（一）副部会長

はい。例えば、教育の課題というのが、日本語が話せない人が増えているというのが、課題で挙げられて、その解決策になっているのが、問題は本当は多国籍の人がいるのに、外国人の喋っている言語に関心が持てないとか英語が喋れない我々っていうのが問題なんじゃないかなと思うんです。そこに、問題を持ってきたら、解決策が日本語を教えるサポートだけじゃなくて、ほかの施策がいろいろ生み出せるんじゃないかなと思ったので、問題を教えていただけたらと思ったんです。知らないことも多分、産業振興とか、観光のことだったら、業種が8割が製造業とか卸売業というのがありますけど、これは言い換えた後、ほかの業種が極端に少ないっていう言い方もできるかもしれませんし、何故そうなのかという問題がきっとあるはずなので、そうするとアイデアがもっとたくさん出てくると思いますから、この辺で問題を教えていただけたらという。

○筋原区長

ありがとうございます。

状況でいうと、日本語を話せない児童、家庭が急増してるので、その背景は、先ほど申し上げた、コロナが収束して、急速にご家族を本国から呼び寄せておられるという状況ですね。その状況が非常に激しいので、まず喫緊の問題として、日本語を話せない児童ですね。小学校、中学校でもいるわけですが、そのこどもたちに、まず、日本語や日本での生活ルールを理解してもらうというところ、もちろん、周りの日本人がそれぞれの母国の言語を、英語なり習得していくというのも解決方法の一つではあるわけですけど、ただ、緊急性でいうと、そっちのほうが時間がかかるので。やっぱりいろいろな施策、私どもがいつも考えるのは、安全・安心というのは、いろいろな方がそれぞれの視点でおっしゃっていただいて、多分、どれも間違いはないと思うんです。どれも大事なことやと思うんです。ただ、どれかから階段を上るようにやっていかないと、実際はなかなか前に進んでいかないということがありますので。ですので、我々の認識として、優先順位としては、まず外国ルーツのこどもたちは、日々小学校で生活するわけなので、まずそのこどもたちに、日本語の指導やサポートをする支援団体と、活動できる環境整備を優先順位としてやっていくという形ですね。ただ、課題が起こる原因というの一つではありませんので、それについては、それぞれの視点からいろいろなアイデアをいただかうというのが、いろいろな施策の厚みにもなっていきますので、それはまさに、区政会議や、いろんなところでおっしゃっていただけたらなと思っています。産業振興のほうで言うと、生野区が何故ものづくりが多いのかというと、歴史的な背景によると思います。ですので、ものづくりの製造業は、大阪のもともとの特質もありますけど、やっぱりこれは、中国やいろいろな海外の安い製品が入ってきて、私も大正区長、港区長、生野区長とやってきて、ずっとものづくり支援はやってきたわけですが、そこでの実感で言うと、非常に高い技術をお持ちの製造業の会社が、将来を悲観してしまうわけですね。だから、すごく高い技術をお持ちであるのに、収益が上がらないんじやないかというふうに考えてしまって、こどもさんに継がせないようにするとか、せっかくいい工場が閉まっていくということを多く見ましたので、跡継ぎの方に新しい収益の柱を立ててもらうという新しいアイデアですね。先代から引き継いだ技術を生かして、新しいアイデアで新しい製品を作ってもらうという取組をずっとやっているという状況でございます。ここについても、またいろんなアイデアがあつたらおっしゃっていただけたらなと思います。

○川中委員

いずれの回答の中にもアイデアや知恵があればお聞かせいただきたいということでしたので、アイデアが出てこれれば直接お伝えいただけたらなと思います。

ただし、先ほどの中村委員の発言の趣旨は、問題をどうフレーミングしていくのかというご指摘だったかと思います。リフレーミング、つまり問題設定のし方を変えることで、出てくるアイデアが変わるんじゃないかという指摘について行政内部でもご検討をいただけたらと思います。

それでは、森口委員。

○森口部会長

ちょっと途中からだったんですけども、よろしくお願ひします。

まず、去年、私ども北鶴橋の盆踊りでは、ハウディ日本語学校の方にブースを提供して、三か国、ネパール、バングラデシュ、もうひとつ忘れましたけど、三か国のおやつみたいなものを作ってくださいということで、盆踊りのときに参加していただきました。実際、非常に盛り上がっていたんですけども、やっぱり参加された方から苦情もありました。盆踊りなのに、どうして外国人がいてるんやと。2、3それはありました。ちょっと僕にしてはショックなことを言われたなと思ったんです。2時間ほど準備からやったら、もうほとんど半日ぐらい一緒にいてたんですけども、やっぱり彼らほとんど成人の子たちなんですね。でも小学生なんかと一生懸命折り紙やったり、やっぱり文化を知りたいとか、いろんなこと知りたいって前向きになっている。いろんな料理を作るのも工夫してやってくれている。その中で、盆踊りですから踊りますよね。そのときにやっぱり国のことを使ってるんやなと。自分の祖国のことも思いながら、「すみません、この歌かけてもらえませんか」とか、そういうのが結構あったんですよ。で、やっぱり彼らも別に遊びに来ているわけじゃなくて、やっぱり命かけて、先ほど区長が言わされたように、自国からご家族を呼んでって、彼らそういう思いで来ているっていうのは、本当に肌で実感した。だから、何か僕らでもできることって言ったときに、前回の全体会で中村委員が、「毎朝挨拶しているし、ゴミ拾っているよ」っていうのを言われたんです。僕もそれにハッとして、僕も近所の外国の、前から顔見知りですけど、「おはよう」、「こんにちは」って言い出すと、向こうもニコッと笑って、「おはよう」、「こんばんは」って言い出すんですね。やっぱりその原点っていうのが、一番大事なんかなっていうのはね、この去年1年間の中で一番それを思ったんです。やっぱり彼らの持っている情報っていうのは、今もうYouTubeとか、ああいう情報でみんな僕らにも、この曲、この曲って言うんですよね。それはかけたんですけども、その中で僕はずっと、最初、僕が区政会議委員になったときも言ったんですけど、区役所では行政としてはできないかもしれないんですけど、行政と例えばJ:COMさんとかタイアップして、やっぱりコミュニティFMを立ち上げるっていうのは、何でも取り組んでいく区長の十八番かと思うんですけど、やっぱり80か国の人人がいて、今、言語の話を中村委員も言われたんですけど、例えば、朝から夕方まででもいいので、毎日じ

やなくても、例えば何時から何時まではベトナムの方の時間とか、ネパールの方の時間とかっていうので、その国の曲をかけたり、それから、当然、日本にいてるその人たちへのメッセージ、それから我々に対して訳した形でのメッセージっていうのも、そういうのっていうのが、特にこの24区の中で、これだけ外国の方がいるコミュニティって本当ないので、改めてそれを僕は立ち上げていただきたいと思っているんです。そういうことから僕らがお互いに理解をしていけば、そんな変なことを言われることもないで、特にJ:COMさんとか、これ議事録なるのに企業名出していいのかどうか分かんないですけども、そういうふた媒体もあるので、積極的にそんなに電波遠くまでとおす必要もないで、その辺のところを取り組んでいただけたら、もっともっとお互いのことが分かっていくと思いますし、これからも生野区が本当に発展していくのには欠かせないツールじゃないかなと思います。それから、グローバルタウンについては、前回も私のほうから近鉄鶴橋駅の東改札口のことも言いましたので、ぜひこの中にもそのところのことも入れていただいて、取り組んでいただければ嬉しいです。

以上です。

○川中委員

ありがとうございました。

どう日常の中で交流を深めていくのか、厚みをもたらしていくのかというところで貴重なご意見だったかと思います。

では、長谷川委員、お願ひいたします。

○長谷川委員

自転車事故が生野区で多いということなんんですけども、本当に私もちよつと膝が悪いんで、今ほとんど自転車なんですけど、青信号でも前後見ると危ないんです。だからその辺、朝見守りをやっているんですけども、前の道路もパッと行っておるんですね。大体みんなヘルメット被っていませんわ。中には高校生もあります。街頭で啓発しているということなんんですけども、もっと啓発してもらわないといけません。もっと具体的にやってもらわないといけません。形式的にやるのなら、こんなことしても無駄ですわ。もっと本当に高校生でも、地方では学校で生徒がヘルメット被ろうということをやってますけども、実際、警察の前とか区役所の前で、沢山自転車通っているわけですからね、そこで朝やってもらうのが一番いいんじゃないかな思ったりしてるんですけども。私たちがヘルメット被ってくださいと言うのもおかしな話なので。だから、そういう啓発用ののぼりがあるなら、もっとヘルメット被ろうというような啓発用ののぼりをくれたら、私もりますのでね。やっていただきたいなと思います。ヘルメット被っている人は絶対交通守ってはりますわ。そういうことで、もっと地についていた具体的な啓発をやっていただきたいなと思います。それと、鶴橋の商店街は、最近ものす

ごく看板が道路へバッと出とるんですわ。非常に危ないんですわ。呼び込みはするしね。その辺がだんだんひどくなってきています。だから、そういうのなんか条例で取り締まるとかできんのですかね。生野区だけでも作ってもらうとか。せやないと、しまいには大きな事故が起こると思いますので、お願ひしたいなと思います。

○川中委員

ありがとうございました。

それぞれ安全・安心にかかるところでした。

では、続けて、篠本委員もお願ひいたします。

○篠本委員

篠本です。よろしくお願ひします。

くらしの安全・安心ということなんですけども、今月 14 日に、北九州の小倉のほうで女子中学生がナイフで刺されて亡くなるという大変痛ましい事件がありました。このような事件を未然に防ぐというのは大変難しいことだとは思いますが、防ぐ努力をしていかなければならないと思います。毎朝、こどもたちが登校するときに見守り隊という形で、見守り活動をやっております。下校のときには、今のところ行われてないと思います。家に帰ってから公園で遊ぶというようなこともありますけども、そういうときにも見守りの目というのはほとんどないんじゃないかなと思います。確かに、テレビでやっていたと思うんですけども、こどもたちの下校時間に合わせて、何か用事を作る、外に出る、植木に水をやつたりですとか、家の周りを掃除したりとですとか、あと、公園のほうなんですけども、犬の散歩をされてる方や健康のためにウォーキングをされてる方などもおられますけども、そういう方にぜひ公園をルートにしていただきたい。そうすれば、こどもたちを見守る目も増えると思うんです。そういうことを区のほうでも、「広報いくの」などで特集を組んでいただいて、皆さんに知っていただく、広く知っていただいたらいいんじゃないかなと思います。

以上です。

○川中委員

ありがとうございました。

ほかの委員の意見や発言を受けられて、発言されたい方はおられますか。

では、井筒委員。

○井筒委員

防災訓練のことなんですが、うちの地域だけかも知れないですが、全くしていないんです。一度もないんです。個人的にお昼に何かがあった場合、若い人たちに助けてほしいと思っているので、金光藤蔭高校が近いので、金光藤蔭さんと連携して、ほんと個人のつながりなんです、まだ今のところね。行事にも来ていた

だいて、ボランティアもあるのでね、来ていただいて、つながっておいて、災害時も何かあったら助けてねって言えるような形を作りたいと先生とお話をしても、そういうふうに持っているんですが、いかんせん地域が全くその意識がなく、備蓄も全然把握できていない。2月に災害想定訓練ってあるじゃないですか。あることは、私は知っていますけど、もう全く誰も何もその話は一切出ない。どこへ行っても。想定も全くされないという状態ですので、訓練をとにかくどんなものでもいいのでしてほしいんです。なので、連長会でもなんでもいいですから、ここまで訓練はしなければいけない。こういうチェックはちゃんとしなければいけないということを、もっと強く言っていただいて、せなあかんねんと思わせてほしいっていうのがありますので、そういうことは今まで言ってはるかどうか分からぬので、ちょっとお願ひしたいです。

○川中委員

防災訓練の空白地帯みたいなものを把握しているか、そうした空白地帯にどう働きかけるのかというようなところだったと思います。

副部会長、私も意見を申し上げてよろしいですか。それでは私も一委員として意見を申し上げます。

今日は、グローバルタウン物語のご説明があり、多文化共生の推進について、各委員からもいろいろなご意見・ご提案があったわけですけれども、こうした地域で様々な活動を推進していくにあたっては、やはりパートナーである行政職員の、区職員の皆さんのがんばりを伴った、あるいは実感に裏付けられた理解が非常に重要ではないかと思っています。関連部署を中心に、ぜひ府内から現場に出て交流したり訪問したりするような形での研修や活動に取り組んでいくことが大事ではないでしょうか。これが一つ目です。

2つ目です。グローバルタウン物語で「3つの柱」が掲げてあります。「教育」と「産業振興」と「観光」です。「教育」のところを見ますと、日本語で話せない児童・家庭が急増という課題が書いてあるんですけども、「教育」だけでなく、家庭の支援も非常に重要なところではないかと思います。例えば、先般、大阪わかば高校の高校生とも交流した際に話を聞いても明らかでしたが、親よりも子どものほうが日本語の習熟度はスピードも速いですし、その度合いも深いわけですよね。仮に親の日本語の習熟度の進みが悪い場合は、子どもが親になり代わって、行政手続きをサポートしたり、通院同行をしたりすることになり、結局ヤングケアラーあるいはヤングアダルトケアラーとなっていく可能性があります。親の課題が子どもにも課題となってしまうのであれば、子どものケアだけでなく、家庭をきちんとサポートする取組を充実しておかないと、いたちごっこになるのではないかと思います。「教育」「産業振興」「観光」の3つの柱だけやればいいというものではないことは、もちろん、皆さん重々承知だと思

いますけれども、どうしてもこういうポンチ絵が出ますと、そこに資源が集中してしまいがちですので、ぜひ全体図を捉えた上での取組をお願いしたいということです。

最後は、区長の冒頭のご挨拶の中で、非正規移民のご説明があったのですけれども、非正規化してしまう背景や非正規化していくプロセス、また、その過程で潜在化してしまうプロセスを理解・把握をして、できるだけ早くに非正規化のリスクに晒されている人々をサポートできる仕組みを作ることも考えておかなければならぬでしよう。強行策に出ますと、より潜在化してしまうことも起こり得るのではないかでしようか。

進行役でありましたけれども、私も一委員として意見を申し上げさせていただきました。

そのほか、皆様方から意見やご質問等はございますでしょうか。

○森口部会長

今、籾本さんが言われた見守りなんですかね、安まちメールという携帯に、僕は生野区、鶴橋ですから、天王寺区、東成区、生野区の安まちメールを登録しているんです。もし何か子どもに関わることとか、いろんな事件とかが起こると、ここにメールとして来るんです。それを当時、学校PTAの親御さんとか、そういった方が登録して下さいねというのがあったと思うんです。あれからもう10年くらい経つですかね。もうあんまり今は聞かなくなったり、言わなくなったり。ただ、ずっと入れているので、僕もずっと鳴るんですよ。鳴ったら、何かなと思ったら、例えば、子どもの追いかけられた事案が発生とか、そういうのが出てくるんですね。それがもう一回啓発していくというのも一つだと思いますし、それと、見守る目というのが、私のところの、田中連合町会長がいつも言うのは、「地域全員が子どもを見守るんだ」と。例えば、僕もほんとは見守り隊に行きたいんですけど、朝8時ってなると結局仕事の兼ね合いでいけないっていうと、そしたら、「構わへんねん、配達行くときとか、そういったときに子どもがいてたりとかしたら、ちょっと見ておいてくれたらそれでいいねん」ということをいつも言われるんですね。だから、そういうところを、連長会とかまち協の理事会とかで、そういうふうに持つてもらえるように、行政のほうからも、啓発・啓蒙していただけたらありがたいし、あまり今度、見守りばっかり言うと、どんな人が見守っているか分からないので、今、非常にややこしいんですよ。決して全員が善人ではないので。だから、その辺の注意もしていかないと、こっちは見守ってやっているんだけど、例えば、そのさっきの安まちメールの案件だって、ただ単に子どもがそういう嘘ではないんですけども、そんなつもりじゃなかったのに声かけられたやつを声かけ事案で言ってみたりとかするので、だから、そのあたりをうまくミックスして、籾本さんがおっ

しゃったように、本当にああいう痛ましい事件が起こらないようにやっぱりこどもたちを見守っていくっていう工夫を、もう 10 年くらい経ったので、社会背景も変わってきたので、もう一つちょっとまたマイナーチェンジして、取組を出していただけたらと思います。

○川中委員

ありがとうございました。

ちょっと時間も超過しておりますので、ほかにもご意見等ございましたら、また事務局のほうにお届けいただければと思います。

では、これにて、意見交換のほうを終了させていただきます。

○中村（一）副部会長

川中委員、ありがとうございました。

それでは、続きまして、「議事2 その他」ということで、事務局から連絡事項がありましたらお願ひします。

○小笠原企画総務課担当係長

委員の皆様、お疲れ様でございます。

事務局から、2点お知らせがございます。

まず、1点目でございますが、本日いただきましたご意見につきましては、1月 17 日に開催されます全体会で部会報告をいただきまして、ほかの部会の皆様にも共有させていただきます。部会報告の内容につきましては、事務局にてひとまず整理いたしまして、本日進行を務めていただきました、川中委員と調整させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

続いて、2点目でございますが、会議の冒頭にご説明しました、区政会議委員の皆様へのアンケートですけれども、出口のところで回収させていただきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

事務局からの事務連絡につきましては以上でございます。

○中村（一）副部会長

それでは、本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願ひいたします。

○筋原区長

皆さん、長時間にわたりまして貴重なご意見をたくさんいただきまして、誠にありがとうございます。いくつか補足でさせていただきますと、外国ルーツ支援ですね。いくつのパークだけでなく、区全体でと。おっしゃるとおりです。森口さんの北鶴橋の地域で、ハウディ日本語学校の盆踊り来ていただいて、ああいう地域の方と外国ルーツの方との自然な交流が生まれる場を作っていくというのは一つ大きい大事な取組だと思っておりますので、そういうことも、いろいろな場所、公園であるとか、いろいろな行事を活用して、できるようにしていけたらと思っています。それから、災害時の避難のときに、学校に来られるので、翻訳機

も、これについては、いわゆる専用の翻訳機もあるんですけども、一方で携帯に入っているツール、これが結構進化が早いので、こっちのほうがいいんじゃないかという意見もあって、それについては、どちらが有効なのかというのを見極めながら、おっしゃるように必ず何らかの形で翻訳ツールというのは必要になると思いますので、できるようにしていきたいと思っています。それから、インバウンドを呼んでくるのに、大阪コリアタウンの近くで、まず観光バス、公衆トイレ、これおっしゃるとおりです。実は、そういう旅行代理店でも、やはりちゃんとした観光バスを停めるところがないと来てくれないんですね。道路上だったら警察の取り締まりがあるので、それで、今、疎開道路沿いにある青果市場さんが、空いている時間も多くて、結構面積広いので、実際に今も、青果市場さんのほうで、旅行会社さんと連携して、観光バスを何台か既に入れおられて、あそこはトイレもあるので、トイレも使えますよというようなことで、そこで物販もやってみるといったことを実際されていますので、今、意見交換させていただいているんですけど、こういうところとも連携をして、現実的にきちんと観光バスの停められるところも作りながらやっていければと思っております。

それから、自転車問題ですね。これについては本当に自転車マナー、日本人の方も外国ルーツの方も、非常に生野区の場合は課題でありますので、これについては、外国ルーツの方への生活ルールですね。これをどういうふうに理解してもらえるかというのは、先般も大阪わかば高校の外国ルーツの生徒さんらと意見交換した際も、何で情報を得ているかっていったら、YouTube であったり、残念ながらジョーブログは見てないそうなんですけど、森口委員がおっしゃった、コミュニティ FM は非常に面白いなと思いますね。毎日時間決めて、いろいろな言語でラジオで流れるってなったら、これは若い人だけでなくて親御さん世代も聞いてくれるでしょうし、実際にこれ神戸でやっておられたと思うので、これについてはぜひ検討したいと思います。

それから、前も森口委員から意見いただいた、鶴橋の東口出たところの高架下が、長年使っていないスペースになっているので、その有効活用と。実は、夜市の常設の場所としては、あそこが最適じゃないかなと思っておりますので、東口を出た高架下ですね。疎開道路まで続いていますので、あれが全部できたら 60 店舗から 70 店舗ぐらいに並ぶということになるので、それが全部、常設の夜市になったら、本当に道頓堀に匹敵するようなものすごいにぎわい拠点になるんじゃないかなと思って、これは近鉄さんのほうにも今働きかけをしようとしているところでございます。

それから、こどもたちの見守りですね。まち全体で見守るというのは、いわゆる警察も、ながら見守りという名前で推奨しておられます。実際に大阪偕星学園高校さんは、運動部がランニングされるので、そのときにながら見守りをします

ということで、連携して区役所で出発式とかもやったりもしましたので、おっしゃるように、このながら見守りは、また改めて連長会であるとか、いろいろなところでもまた啓発にも努めていきたいと思っております。

それから、川中委員のご意見について、教育、産業振興、観光って一応分かりやすく書いているんですけど、もちろん教育、日本語話せないこどもさんだけではなく、親御さんの問題もあり、生野区の場合はもともといろいろな課題が多いまちなんですよね。ヤングケアラーのこともありますし、児童虐待、高齢者の課題、沢山あるわけですけども、沢山ある課題の上に、外国ルーツの方が増えていっているという、更にのっていっているという非常に難しい状況になってきております。ですから、もちろん、もともとある課題の中では、家庭の問題として外国ルーツの保護者の方への指導も従来からやっておるわけですけども、それも合わせて、優先順位の高いところから、着実に進めて行くということが必要だなと思っております。

不正な入国・滞在については、これはやはり警戒するのは、一時期の貧困ビジネスのような形の業者とかが現れてくるんじゃないかなと非常に懸念しているところですので、そういうところから、生野区が決して狙われないように、いろいろな行政の取締の機関とも連携を強めて、厳しくやりながら、一方で異和共生で、まさに、盆踊りにいろんな国のルーツの若者が来ていただいたというの、お互いに分からないながらも、壁と壁の一歩踏み出して、そして交流していただいたら、異和共生そのものだと思いますので、こういう形で交流、相互理解も深めながら、グローバルタウンの実現に向けて努力していきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

長時間、ありがとうございました。

○中村（一）副部会長

ありがとうございました。

区政会議は、生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換をし、意見を語り合える場です。令和7年1月17日には、全体会の開催が予定されておりますので、よろしくお願いします。

それでは、これにてくらしの安全・安心部会を終了します。皆様、お疲れ様でした。